

# 第26期考古学セミナー（2024年度）

—やまがたの遺跡の中のカミ・ホトケ—

## 第1回講座

講義①

庄内平野の遺跡からみるカミ・ホトケ

山形考古学会顧問

佐藤 庄一 氏

令和6年9月22日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

令和 6 年 9 月 22 日(日)

## 「庄内平野の遺跡からみるカミ・ホトケ」(報告用)

佐藤 庄一

### I 祭祀に関連する墨書土器と木簡

#### (1) 平安時代の井戸跡から出土した墨書と祭祀遺物

庄内地方で検出され平安時代の井戸跡、昭和 57 年 3 月現在で 40 基確認されており、その後に見されたものを合わせれば倍近くになるであろう。

酒田市生石 2 遺跡からは、溝跡などから「井」の墨書土器が 223 点出土しており、平川南氏は「井」の墨書について、道教の悪霊を払い、願意成就のための符合「 (九字)」の略号であると指摘した(平川南 1991)。酒田市関 B 遺跡の S E 2 井戸跡からは「霊長」の墨書土器が 2 点出土(資料 2 下)しており、「霊長」には雨乞いという意味が考えられるという。後田遺跡や新青渡遺跡、手蔵田 2・12 遺跡の井戸跡などからは、斎串などの祭祀遺物が出土している。

また酒田市北田遺跡の S E 159 井戸跡の井桁に組んだ校倉状の井戸枠には、「東西南北」と「一～四」の墨書された井戸番付と、「南方」の墨書土器が 2 点発見された(資料 1 上)。「南方」は、「南方土公神王」や「南方青龍王」に関連するもので、「土公神(どこうじん)」は陰陽道由来の土を守る地神である。

#### (2) 祭祀に関連する木簡と陰陽道

酒田市堂の前遺跡の約 2 町四方の区画施設の南側の大溝からは、「急々如律令(きゅうきゅうじょりつりょう)」と墨書された木簡が 3 点出土している(資料 1 下)。

陰陽道の基盤は、陰陽五行説であるが、易の思想と結び付くことによって具体的な占術となり、日本古来の卜法と共に実践されていた(資料 2 上)。古代日本の政治思想は儒教を正統的な基盤とするもので、道教は官学教科からも除かれていた。道教は仏教との対立関係によって禁圧されるに至ったことから、陰陽道にも反官的な傾向が現れ、民間信仰との繋がりを強めることになった。

### II 笹塔婆や呪符、形代などの祭祀遺物

#### (1) 祭祀に関連する呪符、笹塔婆などの木簡や斎串(資料 2 下)

酒田市生石 2 遺跡からは、昭和 61 年度調査の S D 100 溝跡から丸木弓 4 点と舟形木製品 1 点と斎串 6 点、S E 250 井戸跡から斎串 1 点、S E 490 から同 5 点が出土している。斎串は圭頭部に切込みがあるものと無いものとに分けられる。時期は奈良時代 8 世紀後半頃と推定されている。

酒田市後田遺跡や新青渡遺跡、手蔵田 2・12 遺跡の井戸跡などからは、斎串などの祭祀遺物が出土している。新青渡遺跡の 2 次調査では、S E 250 井戸跡から 7 点と S K 311 土坑から 13 点の斎串が出土している。斎串の形態や出土土器の検討から、俵田遺跡→手蔵田 12 遺跡→新青渡・後田遺跡→手蔵田 2 遺跡への変遷が阿部明彦(1985)によって推定され

ている。遊佐町上高田遺跡のSG2川跡からは、斎串などの木製品が多数出土している。

鶴岡市後田遺跡のSD3溝跡からは長方形で先を尖らした板材に様々な加工を施した笹塔婆や呪符用の木簡が43点出土している。うち23点に「南無大日如来」や「尤普賢」「□□急急如律令」などの文字が書かれている。時期は12世紀末から14世紀頃と推定されている。鶴岡市矢馳A遺跡（県埋文報告書127集）からは、斎串、人形、刀形、船形、馬形などの木製形代などが出土している。

#### (2) 庄内の遺跡から出土した人面墨書土器（資料3上・村木志伸2004）

人面墨書土器は疫病神に対する祓いの祭祀であるが、県内では遊佐町上高田遺跡、酒田市山海窯跡、同俵田遺跡、同横代遺跡、寒河江市三条遺跡、山形市今塚遺跡の6遺跡から出土している。つぎに庄内の遺跡から発見された4遺跡の人面墨書土器について紹介する。

酒田市山海窯跡の人面墨書土器は、SK110土坑から出土した須恵器高坏に墨書されたもので、体部に人面墨書、底部に墨書の文字が描かれている。時期は9世紀前半と推定される。俵田遺跡の人面墨書土器については、後で説明する。

酒田市横代遺跡の人面墨書土器は、SG7河跡の西岸中央部から出土している。赤焼土器甕の体部外面に正位で人面墨書が描かれている。時期は9世紀前半と推定される。

遊佐町上高田遺跡の人面墨書土器は、SG2河跡の東岸中央部から出土している。赤焼土器甕の体部外面に正位で人面墨書が描かれている。時期は9世紀前半と推定される。

SG2河跡からは、木簡7点や墨書土器322点多量の形代などの木製品が出土している。

### Ⅲ 寺院跡や仏堂跡と考えられる遺跡、遺構

#### (1) 遊佐町大楯遺跡

遊佐町大楯遺跡は、県営圃場整備事業に関連して、山形県教育委員会が昭和62年と63年、遊佐町教育委員会が平成元年と同2年の4次に亘り発掘調査を実施している。

このうち寺院に関連するものは、2次調査で検出されたSA10柵木列内の建物群、とりわけSB401建物跡である（資料3下・4上）。この建物跡は、建物地業と石組の雨落溝を持つ礎石建物跡で、3間四方に東廂をもち、本遺跡内では極めて重要視された建物跡で、居住者の信仰に関わるものと推測されている。また、柵木列西に隣接するSD912溝跡からは多量の木製品に混じって、錫杖状の木製品、五輪塔と考えられる木製品が出土し、建物跡近くからは精製品の香炉と考えられる青磁が出土している。来迎壁のような形跡や数少ない仏具の出土などもあり、3間四方という造りから阿弥陀堂のような存在も比定できる。

遺跡の時期は、2次調査のSD912溝跡から出土した「保元（1156～1158年）」の木簡などから、12世紀初頭に成立し、隆盛期は12世紀中葉から13世紀中葉のことで、14世紀以降は衰退していたと思われる。左大臣藤原頼長の日記である『台記』の仁平3（1153）年9月14日条には、奥羽の奥羽の遊佐など5荘からの年貢徴収をめぐる顛末が書いてあり、遊佐荘は平泉の藤原基衡が頼長の年貢増徴の窓口となっていたことがわかる。

#### (2) 鶴岡市中山廃寺など（資料4下）

庄内平野で発掘調査が実施された中世の寺院跡として、藤島町（現鶴岡市）勝楽寺跡と同町中山廃寺跡がある。勝楽寺は以前五輪塔や井戸枠が出土していたが、発掘により掘立柱建物と六角形の墳墓堂が発見され、珠洲系陶器などから13世紀後半と推定された。

中山廃寺跡は、昭和56年に藤島町教育委員によって発掘調査されている。掘立柱建物4

棟、と礎石建物1棟、石垣や土坑が検出されている。門・金堂・八角の多宝塔などの伽藍が想定されている。14世紀の陶磁器類と古銭・錫杖・五輪塔などが検出されている。とりわけ墓壇から出土した水晶製五輪塔（舍利塔）は、全国でも数例という逸品である。文献上の加賀寺に比定されている。

#### IV 祭祀遺構と地鎮遺構

##### (1) 俵田遺跡の祭祀遺構（資料5上・5下）

資料5上は、山形県教育委員会が昭和58年に、全国でも珍しい祭祀遺構を検出した旧八幡町俵田遺跡の図である。壊れた赤焼き土器の甕の中に先端を削いだ斎串がまとまって入っており、その前に人形の木製品が重なって倒れているのがわかる。甕の表面には、左下のよう墨で人の顔が4面描いてあり、その真ん中に「磯鬼坐（いそおにまします）」という文字が書かれていた。人形の木製品の顔は、頭に鬚をかたどり、8体すべてに髭を生やした各々異なる男性の顔が書いてある。

この状況を復元してみると、人面墨書土器の甕の両脇に木製の刀と剣を一振り立て、これを中心に人形の木製品が左から2個、4個、2個の順に並んでいる。またその周りには鞍を付けた木製の馬が8個立てられていた（資料5下）。

平安時代初めの嘉祥3年（850）に、全国に先駆けて出羽国に陰陽師が派遣されている。

『延喜式』の四時祭や祝詞の大祓条によると、穢れを負わせた人形を、四国の卜部が祓所に解除するとある。俵田遺跡の状況は、この祓所にあたり、馬形は罪穢れを負った人形を根国底之国に運ぶため、人形の傍に立てられたのだろう。おそらく酒田市の城輪柵跡の政庁で出羽国司立ち合いの下に人形に穢れを負わせる儀式があり、その後陰陽師が近くの川の岸辺で人形木製品などを並べて祓所への解除として川に流すつもりが、急な大雨で祭場が土砂に埋まり千百年間そのままの状態が残ったものと思われる。陰陽師による祓所への解除と思われる祭祀場の発見は日本でここだけである。

##### (2) 下長橋遺跡の地鎮祭跡と性格（資料6上・6下）

遊佐町下長橋遺跡の遺構は、山形県教育委員会による昭和63年の発掘調査で、十和田aと思われる火山灰（915年降下）の堆積などから、平安時代の915年以前から11世紀前半までⅠ～Ⅴ期に年代区分されている。このうちⅢ期の建物であるSB1・2・4は企画性を持って配置されたものであり、規模も大きく官衙の正殿、東脇殿、後殿の位置関係に類似する。

地震が起こったのはⅣ期とⅤ期の間であり、東区でこれらの建物跡と重複する位置にある特殊埋設遺構は、掘り方に地震による変形が認められないことから、地震によるⅣ期建物群の崩壊という事実があつて、その後のⅤ期に構築されたものと考えられる。

特殊埋設遺構は、SB4建物跡と重複し、山形県では今まで例を見ない特殊な遺構である。各ピットの中に赤焼き土器甕と坏・小型皿・さらに小さな礫がセットとなって埋納されているもので、全部で6基が確認された（資料6上）。ピットの規模は計30cm前後、確認面からの深さは20cm前後である。土器の埋設状況をみると、6基ともほぼ同一パターンを示し、甕が1個体ピット内に埋められ、甕の内外に数枚の小皿と坏もしくは高台付坏、小礫10個前後が1セットで出土している。遺物の向きや重なり方に規則性は認められないが、小型皿や小礫の個数が各ピット毎に異なっており、何らかの意味をみることも可能である。

特殊埋設遺構の性格について、仏事による祭祀遺構の可能性が高いという平川南氏の教授もあるが、渋谷孝雄氏が報告書（渋谷 1989）で述べているように地鎮に関する遺構とみて大きな誤りはないであろう。地鎮には、建築する土地を浄化する意味があるといわれており（水野正好 1985）、これらの遺構がする地域は更地であったと考えられる。

屋敷地や居宅をめぐる呪いも種々の相があり、昭和 55 年に元興寺文化財研究所が調査した高野山宝性院の本堂再建時の屋敷地取作法の遺跡などはそうした呪儀の例である。宝性院の敷地を長方形に割し、四隅・中央に折敷 5 枚の皿（五穀粥・切華・抹香・散米・酒を盛っている）を載せた姿で配されていた。折敷の位置には本来礼文を書いた札が立てられ、これによって結界された内部を各辺 7 等分し、49 の坪を作る。そうして西南隅から西北隅へと順次 12 運を配置して渦巻き状各坪に配置すると中心坪で配運が終わる。そうすると西南隅、中心、東北隅の 3 坪が「建」坪となり、西北隅と東南隅が共に「破」坪となる。「建」と「破」という建築に当り最も重要な対語が対象隅の坪に配される結果となっている。そこで対向の破坪（西北・東南隅坪）の土を取り他へ捨て、建坪（西南・東北隅坪）の土を取り入れるといった呪儀が行われるのであり、凶を捨て凶坪に吉土を配する結果となり、以後吉凶の坪土を入れ替え、全坪を吉坪化するのである（資料 6 下）。仏教だけでなく、修験道でも神道でも、修験道でも輪宝墨描土器を用いて屋敷地取作法を実習している。

これを参考に、下長橋遺跡の S B 4 建物跡とこれに重複する特殊埋設遺構の位置関係を見ると、EU822 と EU823 を対向の破坪（西北・東南隅）とし、この土を取り他へ捨て、建坪（西南・東北隅坪）の土を取り入れたもの、S P 922 は建物の中心坪の陽の土取り出したものとの解釈もできる。

# 庄内平野の遺跡からみるカミ・ホトケ



『方形基壇の筏地業』(堂の前遺跡)

佐藤 庄一

第25回考古学セミナー

令和6年9月22日

# 旧八幡町堂の前廃寺の伽藍配置



Fig. 3 遺構配置図

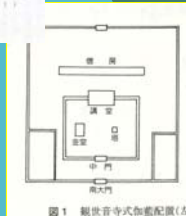
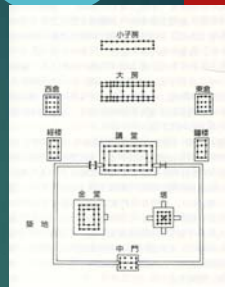


図1 観世音寺式伽藍配置(左)



多賀城廃寺の伽藍配置と模型



図44 多賀城廃寺伽藍模型

堂の前廃寺の伽藍配置と  
観世音寺式(高倉洋彰2010)

# 堂の前遺跡の呪符木簡



図1 堂の前遺跡出土呪符木簡



## 出羽国講師の安慧という人物

- ・安慧（あんえ）；円仁の弟弟子。
- ・承和 1 1（844）年出羽国講師（拾遺往生伝）。円仁の没後に比叡山延暦寺4代座主となる。
- ・講師；諸国の国分寺に配置、僧寺に住む、任期 6 年の職掌。



急々如律令の木簡と出土状況

# 陰陽道と陰陽五行説

表1 陰陽五行説

基本形	木	火	土	金	水
方位	東	南	中央	西	北
色	青	赤	黄	白	黒
四季	春	夏	土用	秋	冬
霊獣	青龍	朱雀	黄龍	白虎	玄武
天体	木星	火星	土星	金星	水星
地形	河川	海・湖	窟穴	大道	山

陰陽師 — 陰陽助 — 天文博士 — 陰陽師 — 陰陽博士 — 陰陽博士 — 陰陽博士 — 陰陽博士

(時長) (次長) (次長) (次長) (次長) (次長) (次長) (次長)

疑五位下 疑六位上 正七位下 疑七位上 疑七位下



図1 堂の前遺跡出土呪符木簡

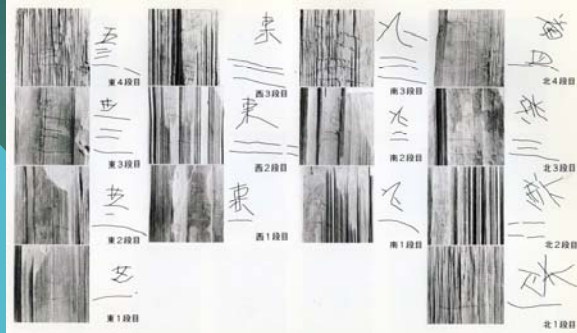
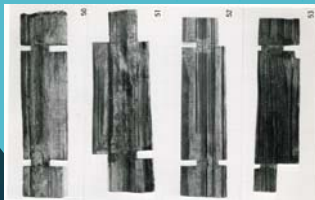


「急々如律令」 出土した3点の木簡とも同じ文字が書かれていた。最初の山窓に戸と縄の文字は呪符であろうか。「急々如律令」は呪術上の常用の用語である。堂の前遺跡出土。

# 酒田市北田遺跡の井戸番付



SE159井戸跡と井戸枠



東西南北四面の一～四段の番付

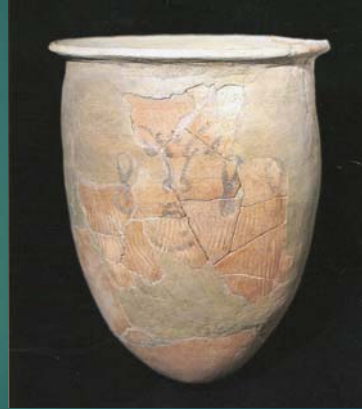
# 庄内平野の 平安墨書土器



## 庄内平野出土の人面墨書土器



遊佐町 上高田遺跡出の  
人面墨書土器

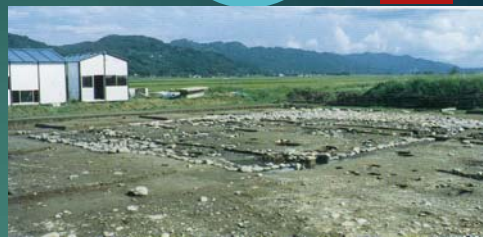


酒田市 横代遺跡出土の  
人面墨書土器

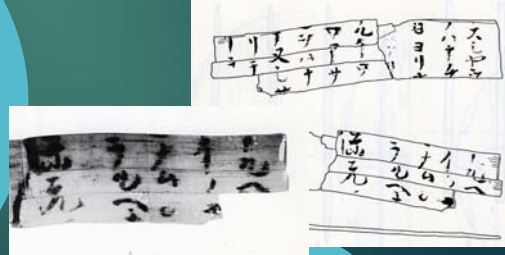
## 平泉と荘園－遊佐町大楯遺跡



山形県の荘園分布図

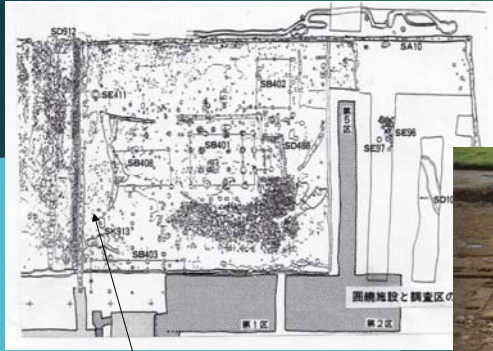


庄家の建物跡(中央に持仏堂のような建物)



「保元」銘の墨書板状片(1156～1158年)

# 大楯遺跡の囲み施設と礎石建物跡



大楯遺跡の囲み施設



SB401 礎石建物跡

# 旧藤島町中山廃寺跡

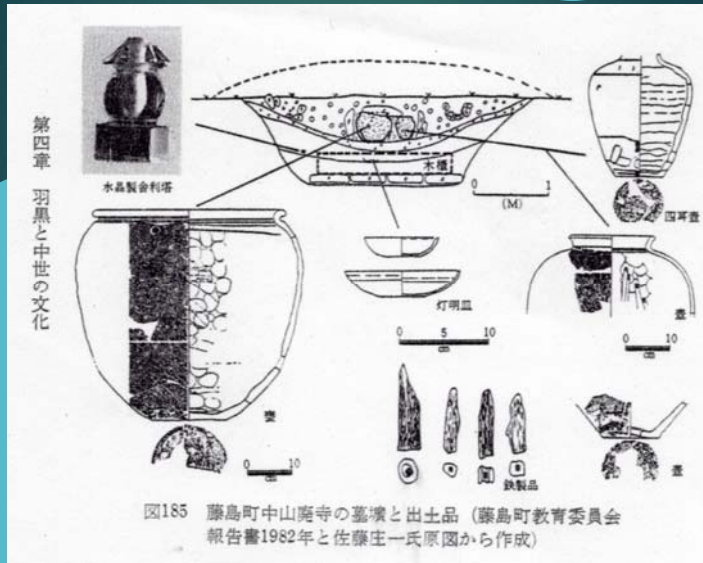


図185 藤島町中山廃寺の墓塚と出土品 (藤島町教育委員会 報告書1982年と佐藤庄一氏原図から作成)

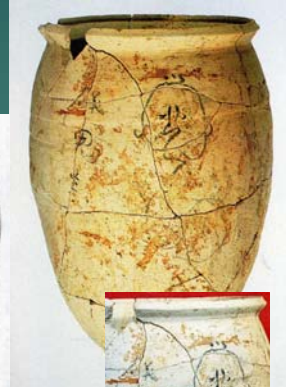
# 俵田遺跡の木製品と人面墨描土器



人形木製品の顔



刀形と馬形木製品



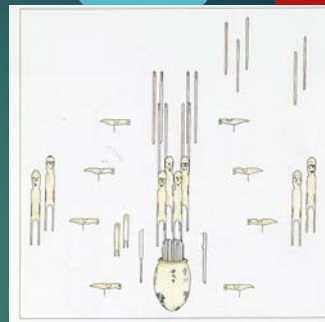
人面墨描土器



「磯鬼坐」

# 陰陽師の祭祀場「俵田遺跡」 (安部実1984)

祭祀遺構と人形(ひとがた)



祭祀遺構復元図



もう1組の祭祀遺構



祭祀遺構全景

あくみぐんゆざまち しもながはし  
**飽海郡遊佐町 下長橋遺跡**

1988年発掘調査

掘立柱建物跡の掘り方に地震による変形がみられ、柱根も傾いています。大規模な帯状砂が北西-南東方向で最大幅約1m、長さ15m以上確認されています。地震は平安時代10世紀後半から11世紀前半の間に起こったと考えられています。

祭祀の遺構には甕・坏・皿・礫がまとめて埋められた穴が6基、坏または皿を埋めた穴が8基ありました。各穴の掘り方には変形が見られないことから、震災のあとにおこなった地鎮の遺構と考えられています。



地鎮遺構



掘立柱建物跡



地震で倒れた掘立柱跡



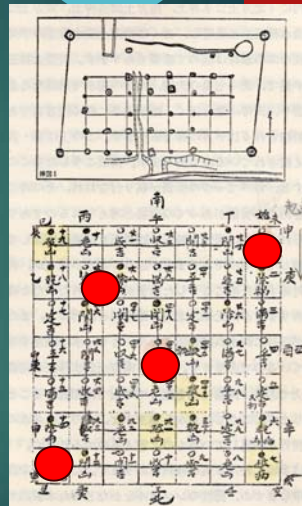
地鎮の供物、甕と皿と礫

**下長橋遺跡の地鎮祭と屋敷地取**



下長橋遺跡SB4建物跡と特殊埋設遺構

● 印が特殊埋設遺構



高野山宝性院本堂再建時の屋敷地取作法 ● 印が建の坪